

運営状況概要書

(株 11)

法人名：

株式会社 秋田県食肉流通公社

設立年月日 昭和53年6月6日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 土田 正広		資本金	1,319,700千円	県出資等額及び比率		445,710千円	(33.8%)	所管部課名	農林水産部畜産振興課		
設立目的	秋田県における肉畜及び食肉流通の合理化を図り、もって畜産農家経済の発展と県民生活の向上に寄与することを目的に設立											
事業概要	肉畜の集荷、と殺、解体 枝肉及び副産物の買い取り並びに受託処理加工 食肉及び副生物の加工並びに貯蔵販売 前各号に付帯する一切の事業											
関連法令、県計画	と畜場法、食品衛生法											
役員数 (R7.7.1現在)	理事	監査役	評議員	計	職員数 (R7.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計			
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		57	15	72		
	3	7	1	2		4	9					

役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧(内数)で表示。

2 法人の行動計画(令和4~7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	安定的経営の継続に向け、と畜頭数及びカット頭数の事業量増を推進するとともに、秋田牛の輸出量の拡大を図る。 【目標】と畜頭数(豚換算) R4年度:190,800頭、R5年度:194,200頭、R6年度:198,000頭、R7年度:202,000頭 カット頭数(豚換算) R4年度:114,000頭、R5年度:117,000頭、R6年度:119,000頭、R7年度:121,000頭 牛肉輸出量 R4年度:16.5t、R5年度:21.6t、R6年度:26.9t、R7年度:30.4t				
取組	と畜頭数の拡大 生産者はもとより県を始めとする関係機関等と打合せを頻繁に行なうなど連携を密にし、生産者等にと場利用を推進する。 カット頭数拡大 カット作業委託先における外国人研修生を含めた人員の確保を推進するとともに作業内容の見直しを行い、効率的な作業体制を確立する。 秋田牛の輸出拡大 輸出を志向する取引業者等との連携強化と県と一体となった海外での販促活動(商談会への参加等)に積極的に取り組む。				

3 財務

損益計算書

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
売上高	11,071,556	11,707,642
売上原価	10,512,432	11,158,322
売上総利益	559,124	549,320
販売費及び一般管理費	504,148	518,685
人件費(売上原価含む)	337,576	357,577
営業利益(損失)	54,976	30,635
営業外収益	10,494	17,130
営業外費用	1,271	7,040
経常利益(損失)	64,199	40,725
特別利益	55,430	10,104
特別損失	57,390	10,032
法人税、住民税・事業税	28,040	17,632
当期純利益(損失)	34,199	23,165

貸借対照表

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度
流動資産	1,024,149	1,112,202
固定資産	906,741	859,672
資産計	1,930,890	1,971,874
流動負債	380,219	412,025
短期借入金	34,687	16,990
固定負債	136,446	122,460
長期借入金	22,788	5,798
負債計	516,665	534,485
資本金	1,319,700	1,319,700
利益剰余金等	94,525	117,689
純資産計	1,414,225	1,437,389
負債・純資産計	1,930,890	1,971,874

端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益 ÷ 経常費用)	100.6%	100.3%	0.2
流動比率 (流動資産 ÷ 流動負債)	269.4%	269.9%	+ 0.6
自己資本比率 (純資産 ÷ 負債・純資産計)	73.2%	72.9%	0.3
有利子負債比率 (有利子負債 ÷ 純資産計)	4.1%	1.6%	2.5

端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
130,754	84,483	64.6%

中小企業退職共済制度に加入している。

県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

株式会社 秋田県食肉流通公社

自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
【令和6年度実績】 と畜頭数（豚換算）：192,392頭（前年度：190,962頭、目標：198,000頭） カット頭数（豚換算）：112,760.5頭（前年度：110,033.5頭、目標：119,000頭） 牛肉輸出量：26t（前年度：19t、目標：26.9t）		【令和6年度実績】 売上高：11,707,642千円（前年度：11,071,556千円） 売上原価：11,158,322千円（前年度：10,512,432千円） 販売費及び一般管理費：518,685千円（前年度：504,148千円） 当期純利益：23,165千円（前年度：34,199千円）	
【自己評価】 「と畜頭数」及び「カット頭数」については、県内の生産頭数が伸び悩んでおり、いずれも行動計画の目標数値に届かなかつたものの、生産者や流通販売業者等との連携・協力により、前年度比では、と畜頭数が1,430頭、カット頭数が2,727頭と増加した。 秋田牛の輸出については、他産地との競争が激化し、行動計画の目標数値に届かなかつたものの、タイ・台湾へ積極的な販売・PR活動を行ったほか、初めてベトナムへ輸出した結果、前年度比では7t輸出量が増加した。 今後は、生産者や関係団体とのより一層の情報交換を通じ連携・協力体制を強化し、生産と販売が一体となつた産地作りを推進することにより、目標達成に向けて取組を進めてまいりたい。		【自己評価】 取扱数量の増加のほか、豚枝肉の上物相場平均が前年度より55円高い1618円となったことから、売上高が過去最高の117億円となった。 輸送費やエネルギー価格高騰に加え物価高に伴う購買意欲の低下など、厳しい事業環境であったが、販売経費の見直しや諸経費の節減に努めた結果、法人独自の事業計画で定める目標（当期純利益10,000千円）を上回る黒字を計上することができた。	

所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
【所管課評価】 「と畜頭数」と「カット頭数」については、目標未達成となったものの、いずれも前年度実績より増加しており、達成率は90%以上であることから、引き続き、集荷や販売における大規模農場との連携や効率的な作業体制の確立など、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。 「牛肉輸出量」についても、目標未達成となったが、新たにベトナムへ輸出を行うなど前年度実績より拡大している。県産農産物輸出の重要品目となっており、「秋田牛」の生産流通拠点として、更なる取組を期待する。		【所管課評価】 令和6年度の経常損益は黒字であり、設備投資に関して県の補助事業を活用しているものの、運営面に関する財政的支援は無く、累積債務も無い。 10期連続の黒字決算と経営は安定しているものの、電力や燃料、各種資材価格の高騰に加え、消費者の節約志向など、厳しい経営環境が続いていることから、引き続き、経費節減や業務効率化に取り組んでいただきたい。	

委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
A	行動計画上の目標は未達成となった一方で、いずれの項目も前年度実績を上回っており、経営状況に関しても10期連続の黒字決算と安定した法人運営を行っていると評価できる。 経営が安定している一方、当期純利益は前年度よりも減少しているため、売上増加、経費削減に取り組む必要がある。

【委員からの提言】

行動計画上の目標である牛肉輸出量に関しては、他産地の有名ブランド牛との競争となるため、秋田牛のブランド戦略を確立し、知名度の向上に努められたい。
--

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
行動計画に定める目標の達成に向け、生産者や関係団体との更なる連携・協力体制の強化により、「と畜頭数」及び「カット頭数」の確保や「牛肉輸出量」の拡大に積極的に取り組むとともに、効率化や省力化、低コスト化を意識した事業運営に努める。 秋田牛については、取扱業者や県との連携のもと、引き続き流通販売体制の強化を図るとともに、タイ・台湾に加えベトナムへの輸出拡大を目指していく。	安全・安心な食肉生産や県産畜産物のブランド推進など、秋田県食肉流通公社が担う公共性の高い役割が引き続き発揮されるよう、十分な連携を行いながら畜産振興施策を推進するとともに、行動計画に定める目標の達成に向け、必要な指導・助言を行う。 特に、県の畜産振興施策上も重要な取組に位置づけている秋田牛ブランドの推進に関しては、十分に連携しながら、国内外における認知度向上や輸出量の拡大などに取り組んでいく。